

三島森田病院

第11回 ホスピタリティ コンサート

音楽療法として、言葉を介さず一流の音楽により、心と身体の調子を整え
感動を体験することを目的としてコンサートを開催します

安井 耕一 & 安井 総太郎
Piano & Cello Duo Concert

Program

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007より
プレリュード・サラバンド・ジーク（チェロ ソロ）

L.v.ベートーヴェン：チェロ ソナタ 第3番 イ長調 作品69
～10分間の休憩～

R.シューマン：アラベスク ハ長調 作品18（ピアノ ソロ）

R.シューマン：アダージオとアレグロ 変イ長調 作品70



安井 耕一 / ピアノ



安井 総太郎 / チェロ

2025.5.17(土)

開場 13:30 開演 14:00

三島市民文化会館

ゆうゆうホール大ホール

入場無料 全席自由 事前申込等不要です

入場対象者 乳幼児を含めどなたでも入場できます

◎お問い合わせ先 三島森田病院 TEL：055-986-3337



三島森田病院の森田療法とは

森田療法は、東京慈恵会医科大学 精神科の初代教授であった森田正馬（もりたまさたけ）が100年前に創始した神経症（不安症・強迫症等）に対する日本発の精神療法であり、現在の当病院の理事長・院長 森田正哉はその曾孫にあたります。本療法は薬物によらず症状を「あるがまま」に受け入れることで健康な日常生活を回復させていきます。本療法では、神経症の根底にある不安や死の恐怖は自然な感情であり、より良く生きようとする人間本来の欲望（生の欲望）と表裏一体の関係にあるものと理解します。にもかかわらず神経症の患者さんは、自己の不安を排除することに努力を傾ける結果、かえって不安が増幅し症状にとらわれていきます。本療法の核心は、このようなとらわれを打破することであり、太陽の光を浴び土に勤しむ農業や工芸を通じて生活のリズムを取り戻し、患者さんが自己の不安も生の欲望も自然な人間性として受容し、「あるがまま」の自己を現実に生かしていられるよう治療していきます。尚、当初は神経症が対象とされておりましたが、ストレスの多い現代社会において薬物療法では限界のある難治といわれる多彩な症状に対しても、病態によっては本療法の効果が確認されております。

出演者 Profiles

安井 耕一（ピアノ） Koichi Yasui



札幌に生まれる。道立札幌南高校を経て、東京藝術大学音楽学部卒業。ピアノを横谷瑛司、水谷達夫各氏に師事、歌曲伴奏については戸田敏子氏の薫陶を受ける。1977年から85年まで西ドイツ、リューベック国立音楽大学にてコンラート・ハンゼン氏のもとで研鑽を積む。ハンブルクをはじめ各地で演奏会に出演する傍ら、同大学で伴奏講師も勤める。帰国後は札幌、東京などでリサイタルを重ね、室内楽、歌曲伴奏等活動が続いている。音楽工房“響”を主宰し各地でセミナーや講座を開催し若手の育成にも情熱を注ぐ。1993年から2007年まで東京藝術大学非常勤講師、2006年より国立音楽大学・大学院教授を勤める。

安井 総太郎（チェロ） Sotaro Yasui



千葉県立東葛飾高等学校卒業。桐朋学園大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。オーケストラや室内楽などで演奏会に出演。チェロを崎野敏明氏、毛利伯郎氏に師事。室内楽を毛利伯郎、名倉淑子、木野雅之、菊地知也、磯村和英、銅銀久弥、神田寛明、北本秀樹、漆原啓子、加藤知子、長谷川陽子の各氏に師事。チェロアンサンブルや弦楽四重奏、ピアノ三重奏などさまざまな編成の室内楽に取り組み、うしく音楽家協会主催の演奏会や、子ども達とのアンサンブル等の地域の音楽活動にも積極的に参加している。